



RCF専用開発された「TOM'S Racingサスペンションキット」は、20段階の減衰力調整が可能で細かくセッティングできる。クリック感のある調整機構によって手動で変更でき、フロントはアッパーパフォーマンスロッドの隙間から、リヤはトランクから簡単にアクセスできる。

FSW LAP TIME

1分58秒663

「直線での安定感も向上し全体的にバランスよく性能が向上した印象」と平川選手。特に300Rや100Rなどのコーナーでピッチングが抑えられ、ボディ補強とサス変更の効果が如実に現れた。



当日はトラフィックが悪く、満足のいく周回は無かったが、きっちり目標タイムをクリアしたのはさすが。今回のセッティングは一般ユーザーにもお勧めできるが、平川選手曰く、さらに細かく調整できる余地があるとのこと。



だがスポーツ走行の時間になりコースインしてみると、状況が芳しくないことが明らかになる。コース上にいるクルマの数がかなり多いのだ。いつものようにじっくりとタイヤを温め、2周目からアタックを始める平川選手。しかし、数周をこなした後でもストップウォッチに記録される数値は2分台に留まっている。平川選手がこれまでレポート車のRC Fで記録してきたラップタイムはノーマルの状態で2分1秒4、そしてエアロとマフラーを装着した際に1分59秒5まで縮まっていた。ということは、さらにポテンシャルがアップしているに違いない今回、ターゲットタイムは58秒台となる。

洗滞をすり抜けるようにしてアタックを続けるものの、なかなか58秒台には入らない。しかし「今回はタイム更新ならずか」と思われた9周目をうまくまとめ、ついに2分58秒6というベストタイムを記録した。コースの混み具合を考えれば、これは素晴らしいラップタイムだ。ピットに戻ってきた平川選手は、「もう少し走りやすければコマ5秒は速く走れたと思います。クリアラップが取れば57秒台も可能だったはず」と悔しさを滲ませる。今回はそれくらい明らかな性能アップだったようだ。とはいえ、前回の状態から1秒近くタイムを短縮したので、とりあえず目標達成である。

「足まわりが変更されたことでクルマの動きが格段に良くなっています。これまでは100Rを通過している最中にピッチングが気になったし、ヘアピンを過ぎた後の300Rでも少し不安定な挙動になることがありましたが、そういう感じがなくなっています。乗りやすくなっているし、ドライブしていて楽しい感じです」

予想像していた通り、足まわりを変更した効果はてきめんだったということだろう。だがしかし、ここで忘れてはならないのが、より引き締まったサスペンションシステムをインストールする際に、入力を受けやすい側の側にも相応の補強をしっかりと施していることである。足まわりポン付けではコンプライトカーとしてクルマ全体のレベルアップは達成できないということである。トムスでRC Fのチューニングをプロデュースしている神山さんに今回のダンパー・セッティングを聞いてみた。「20段階調整でフロントが15段目、リヤが10段目で走らせました。フロント側は少し硬めに設定してロールを抑えて、一方のリヤは硬くし過ぎず、トラクションを確保する方向です」とのこと。



REPORT ● 吉田拓生 (Takuo Yoshida)
PHOTO ● 市 健治 (Kenji Ichi)

Vol.4

更にタイム短縮。58秒台に突入!

6か所に及ぶボディ補強とオリジナルサスキットを装着したトムスRC F。前回はその効果をストリートで確認し予想通りの性能を確認したが、やはり気になるのはサーキットでの戦闘力アップ、端的にはタイムの向上だ。テストコースに設定した富士スピードウェイにて、三たびタイムアタックを実施!

Lexus RC F Tuned by TOM'S

す でに完了していたエアロローレとマフラーに加え、先月のレポートでボディ補強と足まわりパーツの組み込み、公道でのフィーリングも確認済みのレポート車、トムス・チューンのレクサスRC F。今回は三たび、現状における完成度を確認するため、ホームコースである富士スピードウェイに持ち込んでタイムアタックを敢行した。

アタックを敢行するドライバーはもちろん、トムス・チームでスーパーGTを戦うレーシング・ドライバーの平川 亮選手。21歳の若手ながら、今回についてはシヨックアブソーバーとスプリングがトムス製のキットに交換され、車高も若干低められたことで余計なアシの動きが排除され、さらなるラップタイム短縮が期待される。今回はレポート車にほとんど変化は見られないのだが、しかし車高が低くなったことで前傾姿勢が若干強調されており、攻撃的な見た目も手に入れている。タイムアタックに使用するタイヤはもちろんこのレポートで使用し続けているブリヂストン・ポテンザRE71Rである。タイムアタック当日の天候は快晴。

当代最速と言われるスピードを持ち、先日のスーパーGT最終戦でもトムスのレクサスRC Fで見事にポールポジションを奪取して見せた輝かしい才能である。カートからキャリアを始め、純粋なレーシングカーを中心にドライブしてきた彼がこれまで気にしていたのは、レポート車のRC Fの挙動の大きさについてだった。このクルマはノーマルでもかなり引き締められたスポーティなアシを与えられているが、しかしそれでもトップドライバーがサーキット・アタックで満足するほどの懐の深さには到達していなかったのである。

